



平成29年11月30日
横浜市立金沢小学校
横浜市金沢区町屋町26-26
☎781-2401

寒さに負けずに走る子どもたち

校長 高木 篤子



「師走」、12月は走り回るほど忙しいと言われています。

本校では12月14日に海の公園で行われる「マラソンフェスタ」に向けて、子どもたちが寒さに負けずに走り、体力づくりに励みます。11月29日～12月13日をマラソン週間として設定し、スポーツ委員会の児童が中心となってマラソンカードの作成や、中休みのマラソンタイムの進行をしています。

年末年始に、マラソンや駅伝のテレビ中継を見ることがあります。長い距離をスピードを保って走り切る選手、その鍛え抜いた体ともに意志の強さが伝わってきます。走ることに、選手の言葉から一端を学びたいと思います。

「できることなら、このまま走り続けたい。20キロでも30キロでも、ずっとこのままいきたい。風になっていたい！」

(2000年シドニーオリンピックで金メダルを獲得した高橋尚子選手)

「2時間以上のマラソンですから、いろいろなことが起きます。不運や失敗の連続だからこそ、マラソンはおもしろい。それを次に活かして強くなるんです。」

(1991年世界陸上金メダルを獲得し、1992年バルセロナオリンピックでアクシデントがあっても8位に入賞した谷口浩美選手)

「誰もが自分という人生の長距離ランナーで、それぞれのゴールを目指して走っています。励ましの声を掛け合ったり給水を渡し合ったり、助け合って進んでいる。」

(1980年代にマラソン日本記録を更新して活躍した増田明美選手)

マラソン選手たちの言葉は、走ることで味わえる心地よさ、失敗や苦しさを乗り越えて強くなること、励まし合って助け合って進むことなど、大切なことを伝えてくれています。

一生懸命に走る姿は、多くの人に感動を与えます。子どもたちがマラソンフェスタに向けて取り組む中で、自分に合った走りのリズムやペースをつかみ、友達とまたは自分自身で走ることを楽しめることを期待しています。

マラソンフェスタ当日は、スポーツサポーターの方々、横浜金沢走友会の方々にご支援いただきます。皆様には、どうぞ寒さを吹き飛ばすくらい元気に走る子どもたちへ応援をよろしくお願いいたします。